

# 2019年度 生物(植物)分類・生態研修会

主催 愛知県自然観察指導員連絡協議会 名古屋自然観察会

本事業は、なごや生物多様性保全活動協議会の活動支援の助成を受ける予定

- ◆ 日時：2019年11月30日(土) 14:00～
- ◆ 場所：庄内緑地グリーンプラザ2階 講習室 Tel 052-503-1010  
地下鉄鶴舞線「庄内緑地公園」下車、2番出口すぐ南
- ◆ 研修会：受付 13:30～  
講演 14:00～15:30 休憩(15分)  
意見交換会 15:45～16:15
- ◆ 講師：津田 智氏  
(岐阜大学流域圏科学研究センター准教授)  
演題「**火と植物**との不思議な関係」



## ● プロフィール

東北大学博士課程修了(理学博士)、日本学術振興会特別研究員、岐阜大学農学部助手などを経て現職。おもな著書は、飯泉茂編著「ファイアーエコロジー 火の生態学」(分担)、鷺谷いづみ編著「生態学 基礎から保全へ」(分担)、日本生態学会編「自然再生ハンドブック」(分担)、種生物学会編「発芽生物学 種子発芽の生理・生態・分子機構」(分担)など

## ● 講演要旨

日本では自然発火の現象がほとんどないため、自然を中心にあつかう生態学の一分野に、火と生物の関わりについての研究があることはあまり知られていません。火そのものは燃焼という自然の現象ですから、火が着くという事態が発生すれば、植物を含む野生の生物への影響を明らかにする研究が成り立つわけです。この分野の研究は Fire Ecology (火生態学) と呼ばれ、日本では研究者もほとんどいないのです。

日本における山火事の発生は、ばらつきが大きく毎年1000-2000件程度が発生し、総計で1000ヘクタール余が焼失しています。全国各地の事例をもとに、山火事跡地に成立する植物群落の特徴についてお話しします。

火が着くと生物はすべて焼け死ぬと思いがちですが、ほとんどの植物は焼死せず生き残ります。その根拠を示すため、草原の火入れや焼畑での実際の火入れ時の温度環境とその後成立する植物群落の特徴を解説します。

## ※ 事前申込みのお願い

当日、満席が予想されます。座席確保のため事前申込をお願いします。

申込締切 11月23日(土・祝) 必着

申込先/事務局 石原則義(会員は各支部連絡先へ)

電話: 052-711-3087 FAX: 052-711-3087

メール: norimameobata@yahoo.co.jp

なお、申込の際は ① 氏名 ② 電話番号 ③ メールアドレス

④ お住まいの市町村 ⑤ 所属(支部・会)

⑥ 参加項目「研修会+懇親会」or「研修会のみ」を御連絡ください

研修会終了後、津田智先生を囲んで懇親会(会費3,500円)を行います。  
(株)広小路キッチンマツヤ 052-201-2082 地下鉄鶴舞線「伏見」下車

一般の方も参加できます。  
参加費無料

